くれて出でまさんとするを、ざんぶと
を抜く間、居られぬ、つぎ手を側
組上ちんと仕をひたるを、伊賀守
胸のとき、腰刀を抜き出て
抜んとするを、文五首を縮て刀の
隙を加へ、伊賀守はたらく者二人
刀を奪れ、引合ての切先
一寸余り打ちたる伊賀守を自を